

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。

登壇する前にですね、きょうは上野大先輩から、声高う言うぎいかんよ山口さん。きょうはやさしゅう言わんば、という御指導をいただきまして、登壇をさせていただきました。そういう中で、先ほどの一般質問を見ておりましたときに、武雄市議会って怖いんだなとつくづく思いつつながらですね、心臓バクバクでここに上がっております。

えっとですね、私今回、3項目にわたっての通告をさせていただいておりますが、一般質問とは、私は武雄市議会は通告制になっていると自覚をしており、皆さん方もそのように考えておられると思いますが、今回いろんな質問の中で、十数人の議員が質問をするわけですのでダブることは多々あるかと思えます。それは、しょうがないと言えばしょうがない。それは十分自覚をしながら、一般質問の通告をしております。

けれども、これは暗黙のルールがあると思うわけですね。例えば議員が、私と誰かと誰かが、4人か5人かわかりませんが、ダブってた。そういうときには、やっぱり執行部の皆さん方も、通告の逆の立場において、だれだれが、こういうふうな質問が出ておりますよと。どうしますか、というのが通常のルールではないか。暗黙の中の了解の中のルールではないかと思うわけですが、まずそれについての御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

議会におきまして、標準会議規則というものがございます。それを、その規則によりまして、一般質問の通告についてという解説がございますが、その通告の目的につきましては、質問者の数や順序を調整したり、答弁の準備を周到にするために、事前に議長に提出するという事になっております。あくまでも通告の目的につきましては、この解説によりまして、議事の整理を目的と1番目になっております。ただし、議会運営を能率的円滑に行うために執行部にも便宜的に配布すると、こういう解説がございます。

今回、こういう通告制度の機能・役割、こういうことを十分に発揮させるための理解ということが不足しておりまして、質問者さんにお詫びを、御迷惑をかけた。

常々ですね、質問者については、その質問の準備に命をかけているということも聞いております。こういうことですね、我々も、そういう質問者が一生懸命組み立てられているということ、やっぱり配慮すべきということを思っていたらなかったということで、お詫びをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、執行部側も十分配慮しなきゃいけないと思っています。ただしね、命をかけている議員さんばかりじゃないんですよ。ですのでそれはね、部長も言い過ぎです。

それと私は国の予算委員会に、ずっと局長の随行で出てきたときにね、武雄市議会ここおかしいなと思ってるのは、あれなんですよ。さきの議員と重複するので、ここは一応避けます。

重複するというのはね、市民の皆さんたちも関心のあることだから、それはもう遠慮しなくて、もうどんどん聞いてほしいんですよ、うん。そうするとね、場合によっては、前の質問と、猪瀬さんみたいに、前の質問と後の答弁がね、食い違ふときってやっぱあるんですよ。そこを矛盾点として追求するっていうことが、僕は国にいたときにね、それはよく思ってたんで、どんどん省略なんかなさらずにね、ばんばん聞いてほしいなというふうに思いますし。

それとやっぱね、全部聞いている人ってほとんどいないんですよ。こういう人気のある議員さんは聞いているかもしれないけれども、そうじゃない議員さんとか聞いていないというのがありますので。だからね、それはもうなんていうんですかね。その議員さんしかごらんにならないという方々もいらっしゃるんで、そこはぜひね、武雄市議会議員の良識ある皆さんたちにお願ひがあるのは、どんどん追究をしていっていただければと思います。

ただし、先ほど部長が申し上げたとおり、我々の部分でその配慮が足りなかったということについては、重ねてお詫びしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

もちろん、我々議員も命を本当にかけてる。

今回の私の質問のその通告は、通告というよりも——これ一番初めお願ひをしたんですけども、9月の委員会で現場を視察に行ったときに、その次の日に、12月の議会でこれをします、この案件についてしますよということで、もうその時点で通告をしております。そういう中での話なんですな。

執行部の皆さん方も、これについては本当に夜も寝るごと寝んごとして、恐らく考えて答弁書をつくっておられる。一方我々もそういうふうにして議会に臨んでいる。

そういう中でのルールですので、今後こういうふうなことについてはですね、それなりに考慮をしながら、先ほどの市長の答弁ではないですけども、やっぱり何遍言ってもそれで武雄市がうまくいくのであればですね、重複するのは大いに結構かと思います。けども、配慮だけは忘れずにやっていただきたい。

〔樋渡市長「はい」〕

モニターいいですか。（モニター使用）田代酒造跡地についてのことですけども。

あのですね、いつの間にか変わっとった。これしかなかった、当初。これが田代酒造跡。もう1個いったら、これなんですな、田代酒造跡。

この田代酒造跡をですよ、いくらで買ったのか、当時。ここも含めてです、これも含めてなんですな。いくらで買ったのかということをお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう信じられません。要した経費は合計1億1,650万円です。こんな借金まみれのだった旧武雄市がね、よくこんなもん買ったなと思います。

内訳は、購入金額が9,900万。維持管理費が530万円になります。解体費用が870万円。買

い戻しにかかる、これもポイントなんです。買い戻しにかかる利息 350 万円なんです。もう、恐るべき驚くべき数字です。

本当にこんなもんよく買ったな、ということのを改めて申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

1 億 1,100 万。

〔樋渡市長「1,650 万」〕

え、1 億 1,000？

〔樋渡市長「650 万」〕

650 万。1 億 1,650 万が、総買い上げの金だそうですね。

もしですよ、もしこれの——戻しましょうか。これをですね、買わないで、この面積。この面積で、もう買わないで固定資産税として、買った日からきょうまでの年数があるわけですね。その固定資産税で換算したらいくらになるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これも驚くべき数字なんです。700 万円です。700 万。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

そしたら、トータルで 1 億 2,600 万。ん、1 億 2,200 万ぐらいになるのかな。（「コンサル代もあるよ」と呼ぶ者あり）ということだと、コンサル代もあるって言われようですね。

そういうことですね、それだけかけた金の割には、それだけ金をかけた割にはですね、もう解体して、すでに何もなかごとなった。そして最後に残ったのは何か。これだけです。見てわかるですか、ここ、ここからここまでですよ。

これは何のために残したのか。理由があつて残したんだと思いますけれども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

当初のいきさつから、長崎街道沿いであるということで長崎街道の景観を残してほしいと。そういういきさつで田代酒造の購入にいたったわけですが、市民団体、あるいは地元等への解体の説明の折にですね、長崎街道の雰囲気少しでも残してほしいというような話がございまして、そういう強い要望に応えるということで、あわせまして残すことにいたしました。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

なんか、してやられたごた感じですね。

この後ろ。このですね、建物の後ろには何がある。コンクリートでですね、固めたつかえ棒といいますか、そういうふうなものがあるんですけども。景観上ですよ、見て、なんのこれが景観上に当たり前にしてあるのか。

ましてやですよ、旧長崎街道だから残しました。景観としていくらかでも残るようになって。どこに残っとうですか、これ電柱ですよ。(笑い声) 当時電柱がたっとうですか。(笑い声) ましてや、この瓦見てください、瓦。この瓦はですよ、今の瓦ですよ。(笑い声) 当時の瓦は、ほうろく瓦って知っとうですか、泥瓦の。(「なるほど」と呼ぶ者あり) ほうろく瓦でもしていればですよ、当時の面影ば残しっとうですね、って言えるかもわからん。(「そうかもしれんな」と呼ぶ者あり)

しかし、電柱があって今の瓦があって長崎街道の面影が残っていると思いますか。答弁願います。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すいません、思いません。

○議長(杉原豊喜君)

19番山口昌宏議員

○19番(山口昌宏君)〔登壇〕

あのですね、本当はこいまで入れとったんです、ここまで。これはですね、裏の……(発言する者あり) つかえ棒です。

もしですよ、もしこれをどこかに売るとする。売るとすればですよ、金かけて、何百万かけたか知りません。何百万金かけたかは知らないけれどもですよ、これを仮に売るとすれば、解体費用ばつけて出さんばなんですよ。ましてや、こいだけのコンクリートを埋めとるとやけん。

そういうふうな面ですよ、これを、この裏の部分についてですね、例えば土中に埋めてしまっって見えないようにしておればですね、なんとか景観としても損なわんかなと思うわけですけども、全く配慮がなっていないですね。何じゃいろう、言われたけんがつくいよう、いうような感じにしかとれんわけですよ。

そいともう1つ、この建物。これだけでいくらかかったんですか。

○議長(杉原豊喜君)

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

この塀につきましては、もともと塀が田代酒造の建物、いわゆる売店と倉庫棟と居住棟3棟ございましたが、それにすり合わせるように塀がございまして、その塀を残してほしいということでございましたので、つかえ棒については解体の費用の中から計上させていただきました。

ただし、そのつかえ棒がですね、鉄骨でできていることであるとか、景観が裏にまわれば、景観を配慮していないという現状があるということについては、配慮が足らなかったというふ

うに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あのですね、そのずっと前にさかのぼればですよ、これば買うときに牟田議員が反対をした。なしがんとば買わんばらんやて。

〔樋渡市長「そうです」〕

田代酒造跡よりか若木の我がうちのとは言われんもんじゃ。隣の百武酒造のまっとう古かとのあろうもんと。（笑い声）なしすれば保存せんとやと。そのほうが、うんと保存価値のあろうもんとということですね、当時牟田議員は反対をしたと。ほんなごた自分のとこば保存ばしてくんさい、まだよかったけどっては、言いよらしたですけどね。（笑い声）

そういうことですね、例えばですね、この、これをつくった景観として、本当によかと思うぎ、こいでもよかでしょう。

しかしですよ、長崎街道、これ塚崎宿で書いちゃあでしょ、ここに。でしょ。塚崎宿のことを書いてあるですね。

そこでですね考えんばいかんとは、今ですね長崎街道ブームなんです、実は。長崎街道ブームでですね、土曜日曜なんかですね、うちの前ばそれこそぞんこぞんことまではいきません。けれども先週の日曜日やったですか二、三十人ぐらいは、長崎街道をずっと通っておられます。それであそこにおおぎですね、家ん前におおぎな長崎街道のこの道はこう行っただって、どこさ行くぎよかですか。そしたら次の次の信号をですね、不二コンって書いてある所から左さ登って行かんばなんとです、という言い方で教えんばいかん。それを登って行って、淵ノ尾峠ば越えた所に、淵ノ尾峠の所にですね、昔谷口議員さんが、なんじゃコケば持ってきて、ここんここに……（笑い声）長崎街道のコケのあったと言わしたですね。

〔樋渡市長「こけた」〕

その所に行くわけですよ。その所に行きたいと。しかし標識がないから行かれない。

こいだけの、しょうもないのをつくる金があったらですね、長崎県は道標といいますか、それずっとあると。だから長崎県まで、長崎県の県境まで行けると。しかし長崎県の県境から佐賀県に入ったら、道標がないからなかなか行くのが難しい。

この金をかけたら、いくらつくるんですか。数、数えてみますか。計算してみますか、本当に。

あのね、というのはね、うちのと言ったらおかしいですけども、東川登のですね、押しボタン式の信号があるんですけども、小野医院に行く所の。あの押しボタン式の信号から学校のほうに入って行ったらですね、一番手前がですね、桶屋さんなんですよ。あそこは、桶屋の前ちゅうて、桶屋さんやった。その次がですね、コンニャク屋の何とかさんって、コンニャク屋さんなんです。その次が仏壇屋の何とかさん。その次がこうじ屋の何とかさん。その次が精米所の何とかさん。そういうふうにですね、昔の長崎街道の面影は全部残っているんです。

こういうふうな金をかけるのがあれば道標なんかつくったらいかがですか、その辺どうですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはまずですね、解体費の870万円で何本立つか試算をしてみました。そうするとですね、これだいたい1本、だいたい相場で12万円なんです。そうすると、割り算すると72本の道標が。これ結構立派な道標なんです。よ。（「そうそうそうそう」と呼ぶ者あり）

なんで、この議論を聞きながら、深く深く反省しています。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

反省は……（「サル」と呼ぶ者あり）何かでもでくって言うてですね。（笑い声）この頃は、もうだいぶ前の話ですけどね。反省は何とかでもできるという話なんですけれども。（発言する者あり）

そこでもう一遍、もう1回ですね、反省をしていただきたいのは何か。（笑い声）

これ5,000平米ぐらいやろ。5,000平米近くあるんですね。5,000平米、だいぶあるんですけども。5,000平米って5反ばかり。（「うん」と呼ぶ者あり）約5反。そういう5,000平米のですよ、この土地をですね、1億2,000万も3,000万もかけて買って、今、更地にした。あとなんばしゅうて思っとうですか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

現在、議会の議決をいただきまして、解体の予算議決をいただきまして解体をしたところでございますが、今後の方向性については、現在オルレコース等も活用されておりますが、そういう歴史的な位置づけも考えながらですね、売却も含めてさらに研究、検討してまいりたいと。市長は検討はしないということとしょっちゅう申しておりますが、研究をしないとなかなか方向性が出ないものですから……（笑い声）さらに研究を進めていきたいというふうに思っております。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

早坂茂三さんちて、昔、田中角栄さんの秘書ばしよられたですね。（「うん」と呼ぶ者あり）あの人の本の中にですね「駕籠に乗る人担ぐ人」という本があるんですよ。その中にですね「議会用語で検討をするっていうのはしないということ」だそうです。

〔樋渡市長「そうです」〕

そがん書いてあったけんが、私がいつか言ったことですね。

しかしですよ、これをですね、今のままの状態で仮においといたら、オルレコースっていったって、ここは跡ですよ、っていうだけでしょ。

早く売るとな段取りをせんとですよ、武雄市は金がないと。これを売ることによって固定

資産税になり、入ったらですね、いくらかなりともするということで、本当にですね——例えば、駅の南口の今回売れましたあの土地だって、簿価でしたら9億円ぐらいまで上がったんですよ。これをこのまま残しとってですよ、武雄市にとっていいことがあるのかないのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう本当ね、私、人のせいにするっていうのは基本的に嫌いなんですよ。

ですがやっぱりね、政治家は責任とらなきゃだめですね。当時の議会は本当に責任とってほしいです。もう、この負の財産が1億2,000万強ね、なんちゅうんですかね、これがもう我々に負の財産の資産としてきているわけですよ。

ですの、私どもとしては、これがそのままだと何もいいことはありません。

これそのまましとくと、またここで、こう例えば犯罪——暗いすもんね、夜。僕もここジョギングするとですね、やっぱり暗いなあって思って、ここに何らかの建物がやっぱ建って。

先ほど議員の御指摘のとおり、固定資産税等が入るということを考えた場合には、私は売却。売却が1つの大きな方向性だと思っていますし、それが私はこの地区あるいはさまざまね、ことを考えた場合に、一番市民価値が上がるものだと確信をしております。

いずれにしてもこの部分についてはね、まだちょっとわかりにくいじゃないですか。武雄温泉から近いといえどもね。恐らくこの議会かなりの方がごらんになられていると思いますので、ぜひまた相談に、不動産事業者を中心として、また私どもとしてもぜひ相談をしたいと思います、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

えっとですね、あそこの土地をですね、ある不動産屋とお話をする機会がありまして話をしたんですけども、もうマンションには全く適しとらんですもんね、と言うわけですよ。なしてかなって思ったら、一番の原因は、あそこは道が狭いということが、一番原因だそうです。はよう税務署をどっかに、武雄市役所の2階か1階にでも移転して、早めにあそこの道路を広くしたらですね、また売れるかと思えますけれども、そういうふうないろんな手立てを考えながらですね、早く売る方向。要するに負の財産として武雄市が抱えないような方向性を持ってですね、行政としても頑張ってくださいと思います、次にいきます。

ちょっと消してもらっていいですか。

次はですね、市道行政についてということで出しております。

市道行政についてと出してしておりますけれども、この市道っていうのはですよ、例えば国道から県道、市道に戻してもろたとはないですね。県道を市道にもらった部分は1つあるですよ。例としてありますよね。もう1つは、市道は、例えば17メートルの市道だって市道ですから。この市道がありますね。もう1つは、従来の市道といえば、あえて市道といえば市道でしょうけれども、その小さな市道。もう1つは農道。従来農道として使っていたものを市道に

なした。もう1つ、なんですか。高速道路の側道を市道に編入したと。この5つあるんですよ、5つ。市道の中にも。ということはですよ、17メートルの市道から、2メートル未満の市道まである。

そういう中での舗装構成は、どういうふうな舗装構成としてされているのか。これは道路によって、下の軟弱地盤だったり、硬い所があったりであるでしょうけれども、基準、基本的なものとしてですね、どれくらいの舗装構成があるのかまずお示をさせていただいて、質問に入りたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

舗装の厚さということで、モニターをちょっと用意していますので。（モニター使用）（発言する者あり）

先ほどおっしゃられましたとおり、もう舗装の厚さというのは、地形の状況あるいは基礎地盤の状況、それから交通量の多さ等によっても違いますけれども、また、大型車が多い道路、一番こちらのほうの道路ですけれども、この分につきましては50センチの厚さというようなことになっております。それからその他の市道ということで、約30センチ。農道ではだいたい24センチ。林道では22センチというふうになっておまして。

市道として管理している道路が、こういった形で実際なされているとは言いきれないと思いますけれども、こういった形が基本となっております。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

本当にですね、これ見てわかるように基本的にはこうでしょう、こんなもんですね。

ところがですよ、ところが、昔の市道あるいは農道はですよ、クラッシャーラン粒調碎石って書いてあるですね。それ、クラッシャーラン粒調碎石抜きで、真っ直ぐいきなり舗装いうともいっぱいあるわけですよ。（笑い声）

私が何を言いたいかって言えばですよ。今、きのうも吉川議員の質問の中にもあったようにですね、今車の、例えば主要道路って思っても、ここが車が少なくなって、農道って思ったところが車のどんどんで行きよる。生活体系の変わっとうけんが、通行量も全然違うような方向に行きようわけですね。

そこで考えんばいかんとは、例えば農道とします。この農道が、いつの間にか市道になっとうですね。それ市道になっとうがゆえに、通行規制がなかなかできない。横四方に、田植えんときは、なるべく少のう通ってください、ってしか書かれんごた状態ですもんね、実際問題として。それで、ここを車が通る。すぐほげる。ほげて、点々補修では間に合わなくて事故がある。

それで事故があったら、執行部の皆さん方どうしますか。

事故があったらですよ、あなたたちは保険にかかっとうけんが、保険で処理をします。そうして議会の中で、専決処分でした。今後このようなことがないように注意していきたいと

思いますって、それで終わりですよ。

今まで何十編、私が議員になってから、その道路に関してのその言い訳、何十編聞いたことかですね。

ということはですよ、今の道路状況を把握しながら——例えば、農道であったのを市道に編入した。高速道路の側道であったのを市道に編入した。しかし、この場合に車の通りが多すぎるから、舗装構成を見直さんばいかん、というような状況の道路がいっぱいあると思うわけです。

今の武雄市の財政状況の中で、すべてを一遍にしなさいとは言いませんけれども、優先順位をつけてですよ、やる気があるのかないのか、その辺のところについてお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

舗装厚の計画につきましてはですね、議員おっしゃられたとおりに、交通量の予測あるいは基礎地盤の状況、経済性、沿道の環境等を考慮しながら舗装をやり直しているところでありまして、農道が市道になったからといって、すぐにはできない状況でありまして、補修の折に正規の舗装に変えていくというふうなことでやっていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今はですね、市長がですね、こそっと、やる気はありますけど、銭がありませんって言ったですね。それ十分わかっている。わかっているけれども、もし、もし本当にですね、死亡事故等があったら、もうやる気があっても金がありませんでは済まんときがあるわけ。

例えばですね、こんなことがあった。例えば、止まれの表示がありますよね。これは公安委員会やけんが止まれの表示は書かれませんが、っていう話やった。それで頭にきたけんですね、これ教育委員会やったですけども、あなたたちはそしたらここで事故があって、亡くなったらどうするんですか、と言った。亡くなったですよ、本当に亡くなった、そこで。2日後にですよ、止まれの線が入ったんです。

まさにこれ、お役所仕事なんですよ。事前にできることがあれば事前にしてほしい。それが市民の願いなんです。でしょ。

そういう中でですね、市長はこういうことについてですね、どういうふうな思いで走っておられるのか。走るだけならばうちの犬でも走る。（笑い声）ちゃんと武雄市のことを見ながら走っているのか、その点についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、これは切実な問題だと認識をしましてね。前、私がフジテレビの「報道2001」にライブで出たときに、こういう話があったのが——もう今からですね、武雄市も農道とかいろんな市道とかいろいろあるじゃないですか。それを全部舗装し直すっていうのは無理なんですよ。（「そう、そう」と呼ぶ者あり）ですので、ここはもう選択と集中で、もう通らない所って

というのは、橋も含めてもう封鎖をしてね、その分だけ、通る所の部分については徹底的に、先ほど御指摘があったように舗装をするっていうふうにしなきゃいけない。

ここで大事なのが議員さんなんですよ。やっぱりですね、全部これ直せってやっぱ言われるですもんね、どの地区においても、言われるんです。特に古川盛義さんは、うんうん、ってうなずいておられるので切実な問題かもしれませんが、そのときに議員さんが、いやここはもうね、閉鎖をする代わりにここは修繕しましょう、っていうふうなことになろうかというふうに思いますので、しっかりね、その直す部分についてはしっかり予算をつけていきたいというふうに思っていますし、そのピックアップを、ぜひ議員さんと私どもと二人三脚でね、ちょっと洗い出しをする必要があるだろうと。

場所は言いませんけれども、ある所でこう走っていたらですね、走っていたら、私が走っただけで、こうひびの割れた所のあったとですよ、アスファルトで。これはさすがに——そのあとに車が通ったときにはどうしようかって思って、聞いたとですよ、私。そいぎ、ここでひと月くらい、もう車通つとらんっていうふうに言われて、そういうところもあるんですよ。

ですので、そこはすぐ事務方には言いましたけれども、そういったところもありますので、ぜひ二人三脚でね、一回こう洗い出しをして、修繕すべきところは、もう徹底的にします。

そしてこれはさまざま議員さんにお答えしてましますけれども、もう新たな道路をつくるよりは、今あるものをしっかり修繕をして息長く使うということですので、石橋は叩いて渡ろうと、このように……、叩かずに渡ろうと、このように思っています。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

石橋を叩いて渡るのは本当に結構かと思えますけれども、西川登に小田志っていう地域があるんですけども、小田志のですね、ちょうど真ん中へんになりますか、元酒屋さんがあって、その所の橋があるんですけども、その橋を叩いたら恐らく折れるかもわかりませんので……、（笑い声）それだけは叩かないで。あれは本当に下を見たらですね……、

もう修繕を、もう絶対今すぐでもっとというような状況になってますので、石橋叩かないでくださいよ。

〔樋渡市長「はい」〕

そういうことも含めてですね、例えば東川登の、いつも言ってるんですけども、東川登のこと言っただけで恐縮なんですけれども、東川登と西川登には、よそにない道路があるんです。それが何かって言うたらですね、高速道路の側道なんです。高速道路の側道っていうのはですね、さっきの舗装構成でいえば農道クラスかな、そんなもんでしょ。

〔樋渡市長「そうですね」〕

そしてですね、とうとううちの区長さん我慢ならんで、もう草刈りしません、と言わした。それは何か。市からの補助がですね、本当に雀の涙ぐらいのですね、油代なんです。そうして片方はフェンスが貼ってありますもんで、草刈り機で草はろうてもですね、草刈り機の刃がですね、もてないわけですね。そういうことですね、とうとう区長さんが、私はしません、ということで断られたという経緯があったと思います。

そいとですね、そこでですね、今まで緊急雇用対策事業っていうのがあって、その事業の補助金で職員さんを雇って、草刈り等々されておりましたね。それがなくなって、今武雄市の単費で職員さんを雇ってですね、されておりますよね。あの方たちですね、処遇を含めて考えてやらんばいかなと思うとですけれども、本当に助かっているんですよ。

これがですね、例えば県で、県の道路の維持管理費をですね、武雄周辺すべてを見たらですね、とてもじゃなか今の職員さんたちの努力を見よったらですね、それこそ何百分の一、何千分の一の金でですね、できているんですよ。

今後ですね、あの方たちの処遇なり、そして今後どうするのかというのは、どのように考えておられるのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もランニング中にその作業を拝見したこともあるし、お声をかけたこともあります。一方で、先ほど山口議員から御指摘があったように、本当にありがたいということを地区の皆さんからも伺ったこともあります。

ですので、そういったことを考えたときにね、ぜひ条件の見直しも含めて、雇用の継続を図っていきたくと思います。そしてこれ、いずれにしてもね、これ我々が雇用するってなると市民負担なんですよ。（「そう、そう」と呼ぶ者あり）市民負担なんですね。ですので、これ議員さんのお給料も、私どもの特別職、そして一般職の職員のお給料も全部出所は一緒なんですね。ですので、総人件費ということでもう1回洗い出しをして、その部分で適正に、ぜひ、これについては配分をしていきたいと、このように思っております。いずれにしても総人件費の中でね、しっかりやっていきたく思ってますし、私個人とすれば、議員さんの報酬であったりとか、本当によくやっていただいています。まあ、そうじゃない方もいらっしゃる。あと、職員についても本当に一生懸命やっています。ですのでその分を考えたときにね、総人件費は、今度ほら、団塊の世代の方々が一斉に辞めるじゃないですか。辞めますもんね。（笑い声）

ですのでその分だけ、ずっとこれ行革になりますので、総人件費を減らしながらそういった雇用をちゃんと確保するっていうのは可能ですので、そこに舵を切っていきたいと、このように考えております。御指摘ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、高速道路ができた、今度新幹線ができる。

そういうことですね、例えば道路にしても水路にしても、水の流れが変わったり、道路が、家のできる場所によって使用する道路が全く変わったというのがいっぱいあるんですね。

そういう中で今後、なるだけちゅうたらおかしいですけども、今後このようなことがないように努力しますじゃなくて、やっぱり路線を決めて、主要道路。要するに、主要道路ちゅうのは使ってる道路ですよ。大きい道路が主要道路やないですから。周辺部が、いつも市長が言うように、周辺部がですね、合併をして良かった、住みよくなったって言って初めて合

併が成功したということですから、その辺を考えながらですね、やっていただきたいと思います。

次、モニターをお願いします。(モニター使用) 実はですね、きのうびっくりした、きのう。これ出したくなかったんですけども、これは武雄青陵中学校生徒指導部からの、ここに書いてある、武雄青陵中学校の生徒指導部って書いてある。図書館の利用についてということで来ておりました。それでですね、きのうの新聞にこれ載ったんですね。きのうの新聞には載った。なんて載ったかというぎ、武雄市の図書館は、ここにですね、もうちょいいつたらですね、商業施設としての部分のあるけん、飲食コーナーのあるから、っていうことを書いてありました。だから、登下校の際は行ったらいかんよ。そこで、私も時々、佐賀にも行きますけれども、4番議員さんにもちょっとお尋ねをしたですけども、そういう佐賀の図書館は、佐賀の市立図書館は飲食コーナーなかと、って聞いたら、いや飲食コーナーあるよ、って。伊万里は？いや飲食コーナーありますよ。

〔樋渡市長「うん、ある」〕

ということですよ、何がいかんのか。スターバックスの——これ大きくしてみましようかね。ここにですね、なんて書いてあったかな。ほら、スターバックスの飲食コーナーなども併設されておりますのでダメですよ。そい、スターバックスじゃなくって、ほかの企業がそこに飲食コーナーがあったらいいんですか、ということなんですね。そして次、こういうことなんです。登下校の際、行ったらダメよ。

こういうのば見たときにですね、市長としてこの図書館を、自分の思いの中でつくった図書館をですよ、こういうふうなことで出たときに、どう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

情けないと思いました。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そしたらですね、私がきのう朝、ある人を通じて県の教育委員会にお尋ねをしました。お尋ねしたらですね、きのうのうちにもう、こういうふうなですね、武雄青陵中学校から出てるんです。なんて書きちゃあか。「武雄市内の学校であり、諸般の事情にかんがみ」(笑い声) 諸般の事情ってなんかって。(発言する者あり) 諸般の事情っていうのはですよ、県の教育委員会が初めて知って、教育委員会から言われたからOKになりましたよ、ということなんですよ。

なお、ここにまた書いてある。「なお、夜間に及ぶ利用や飲食コーナーの利用については保護者の責任のもとでお願いいたします」って書いてある。わからんじゃなかですね。

ただですね、私も高額納税者じゃなかですけども、高額に本は買っているつもりであります。高額と言えばおかしな感じが、利用頻度は私も高いほうとは思っておりますけれども。

夜間にですね、例えばお父さんなりお母さんなり、武雄高校の例ば出すぎですよ、お父さんお母さんとかが迎えに来ますよね。今頃送り迎えがほとんどですから。そういう中でですね、

子どもたちが図書館に来るわけです、高校生が。武雄高校生、いいですか。武雄高校生やけん、中学生じゃなかよ。武雄高校生がですね、あそこで、お父さんお母さんが来るのを待ってるんですね。あそこは電気もついと、明るくもある。それ逆の場合もあるわけです。お父さんお母さんが先行って図書館で待つとくけんが、そこにきんしゃいね、ということもあるわけですね。それで、こいば見いぎですよ。あそこで図書館におることが悪いような書き方をされているんです。

〔樋渡市長「そうそうそう、そうさ」〕

なんらかのトラブルに巻き込まれるなどと。

〔樋渡市長「すごかよね。もう」〕

そういう中ですね、これ今回ですね、都会から代田さんという教育監を迎えました。その大都会の代田教育監がですね、こういうふうなことについてですね、やっぱ都会の考えっていうのはまた別の考えがあるんじゃないかと、私は思うわけですね。(笑い声)

そういう中で、代田教育監どのような思いで今のこと考えておられるかお尋ねをしたいと思いますけど、よろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

まず公立の中学校なので、こういった問題に関しては、都会であろうが田舎であろうが、あまり変わらないかなと……(笑い声) いうふうに思います。

それでやはり常識的に考えて、図書館ですから、スターバックスがあるので利用制限するというのは、常識的からいってもかなり厳しい、よくない判断じゃないかなと……(発言する者あり) いうふうに思います。

私も学校現場に、中学校に5年間いましたので、こういう判断がなされるような裏事情の生活指導があったとは思いますが、いろんな問題があったから、こういうふうな策に出てしまったんじゃないかなとは思いますが、それにしても学校全体でこういうルールをつくってしまうというのは、よくないというふうに思います。

ただ、1つ言う——私がこの場なので申し上げたいのが、これは青陵中学校の学校教育活動を否定するものではないので、今、きのうもネットを見ましたけれども、青陵中学校の活動自体を、こう誹謗中傷するような書き込みもあってですね、学校現場にいた人間としては、これ生徒が読んだら、保護者が読んだらという気持ちになると、すごくいたたまれないというか、心苦しい思いをしています。

そういった意味でいうと、私も青陵中学校の合唱コンクール見に行ったんですが、すばらしい合唱コンクールしてるし、活動自体は何ら損なうものではないので、これを機に、今以上にですね、自信を失わずに生徒の皆さんには頑張ってもらいたいというふうに思っています。以上です。

〔樋渡市長「すごいね」〕

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

さすがに教育監ですね。（笑い声）

結局これは子どもたちが悪いのではない、ということなんです。それを見守る学校であり保護者でありが、今後やっぱり考えていかなければいけない問題だと思います。

そういう中で最後に、市長がこのことについてですね、どのような思いで今後を見守っていかれるのかをお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は学校が大嫌いでした。やっぱりね、もうそういうことなんです。押さえ込むといつかね、抑圧するといつかね、自由を考えさせるのを与えないというのが学校の1つのね、1つのですよ。1つのなんと申すか、パワーだと思って。それに僕は、今思えばね、激しく反発したと思うんですね。

ですので、それもなおかつ最後のところにね、今度新しく——出してもらっていいですよ。

〔19番「よかろうか」〕

出して、出して。

方向転換、方針撤回についてはね、これは率直に歓迎をしたいと思います。これはね、僕は偉いと思います。早かったです。これ多分、県の教育長がものすごい危機意識を持っておっしゃられたということも聞いておりますので、これは私は率直に歓迎をしたいと思っています。

ただし一方で、わかんない言葉は使わないほうがいい。「諸般の事情に鑑み」ってわかりますか？これ。「諸般の事情に鑑み」ですよ。これはね、言葉の三重苦と言います。それとなおかつね、最後の「なお、夜間に及ぶ利用や飲食コーナーの利用については保護者」。こんなこと書かなくていいですよ。書かなくていい。これこそね、やっぱり保護者も考えるし、児童生徒も考える話なので。ああ、またここにもね、管理したいんだなっていう気持ちが出ているというのがね、十分にわかりました。

その点ね、武雄市の武雄中学校を初めとして、そんなことないです、うちは。（発言する者あり）うん。なんですか。（発言する者あり）ちょっと私語は慎んでください。

ですのでそこはね、分けて考えるべきだというふうに思っているんですが。

繰り返し言いますが、これはね、単に青陵中だけの問題じゃなくて、これだけいろんな——例えば、日経新聞の社会面にも載ったらしいんですね、これ。全国にもいろんなところにも報道されてますので、いい考えるきっかけになったと思うんです。

ですので、これを前向きにとらえてほしいと思っていますし、先ほど代田教育監からありましたように、これをもってね、青陵中全部否定しているわけじゃないんですよ。非常に素晴らしいところも多々ありますので、これは自信を持ってやってほしいと思っていますし、かつ、最後にしますけれども、こういうふうに迅速にね、迅速に方針を転換していただいたことについてはね、感謝をし、評価をしたいというふうに思っています。

きのう平川校長先生にも会いましたけれども、とってもいい校長先生でした。副教育長もお

見えになりましたけど、とっても素晴らしいと思いました。そういうお気持ちがね、こうちゃんと伝わればね、さらにいいのかなというふうに思っています。

いずれにしても、議論を巻き起こして良かったなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしてもですよ、学校現場のことですので、例えば学校の先生というのは、子どもたちに教えるときに、素直な子どもになりなさい。言い訳はせずに素直な子どもになりなさい。消されたばってんが、素直な先生になりなさい、という話なんですね。そういうことでしょ。

我々武雄市も今から先、いろんな課題、問題を抱えております。そういう中で市長を先頭に、我々も一生懸命頑張っていかなければと思っておりますので、今後ですね、こういうふうなことはなるだけないような、いい環境の中で、いい子どもたちが育てるようなですね、世の中にしていきたいと思いつつ、一般質問を終わります。（発言する者あり）